

平成 28 年度 まちづくり移動町長室（一色、緑が丘、百合が丘 1・2・3 地区）

日 時 平成 28 年 6 月 18 日（土）14 時～16 時

場 所 一色小学校体育館

参加者 40 名

人口ビジョンと待機児童数について	
参加者	人口ビジョンについての説明があり、策を講じて努力することで人口減のカーブが緩やかになる程度であったが、もっと回復させることはできないのか。待機児童数がゼロであるのは喜ばしいことであるが、人口が減るからこの状態でいいと考えるのか、人口を増やしてそれに対応できる小規模保育施設を増やしていくなどの考えはあるか。
町長	日本全体が人口減少社会になっている。人口を増やしたいという考えはあるのだが、結婚や出産の数が減っており厳しい状況は続く。なるべく人口減少のカーブを緩やかにしたい。そのためには住宅対策などいろいろな施策が必要であると考えている。
政策担当 参事兼企 画政策課 長	日本全体において子どもを産む年代が減っている。人口推計というのは残念ながら最も確からしい推計と言われている。他から人に移住してもらうにも限りがある。現在 1.1 とか 1.2 という合計特殊出生率の数字を 2060 年に人口が減らずに保たれる割合である 2.07 とすることを目指す。また転入転出の社会増減は現在マイナス 1%前後で転出の方が多くなっているが、こちらプラスマイナスゼロを目指していく。

施策提案について	
参加者	<p>いくつか自分で将来に向けた策を考えてみた。参考にしてほしい。</p> <p>1 週間ほど前に町の担当課職員へ聞いたところによると、保育園の待機児童数は限りなく少ないがゼロではないようである。児童数が減っている町内小学校に保育園を併設したらどうか。</p> <p>プロモーション動画が評判であるが、空き家バンクや遊休農地利用、待機児童の少なさなどをパッケージ化して移住促進策として売り出したらどうか。</p> <p>吾妻山の菜の花がマスコミに取り上げられる機会が増えたが、関係機関に働きかけてふるさとの家のような町内の古民家を映画の撮影に使ってもらってはどうか。成功すればファンが押し寄せるだろう。</p> <p>緑が丘に建設される話が進んでいる霊園については、緑が丘住民の 89%が反対しているというアンケート結果が出ている。移住促進を進めるにあたり、霊園があることはよろしくないのではないか。</p>

町長	<p>待機児童については、個別に入りたい保育園を指定しての待機ということではなく、町全体としてはゼロと認識している。待機児童ゼロを継続できるようにやっていきたい。</p> <p>プロモーション動画はお陰様でうまくいっており、動画の出演キャラクターも積極的に皆さんに利用してもらえるようにルールを決めているところである。映画の誘致に力を入れている自治体は確かにある。ふるさとの家も民間の力でうまく使ってもらえたらいい。</p> <p>墓地については、事業者からの申請が平塚保健福祉事務所に受理され、町へ意見照会がきている。緑が丘自治会のアンケート結果は町でもいただいております、内容は目を通している。それらを意見照会の回答に活かしていく。</p>
----	--

高齢者保健福祉計画について	
参加者	<p>昨年3月に町の高齢者保健福祉計画を策定した際に、今後3年間に町には老健施設が必要であると結論付けられていたと思うが、それについての進捗状況を伺いたい。事業者へアプローチをしているのか。</p>
健康福祉部長	<p>老健施設100床分が必要であると計画には盛り込んでいるが、近隣町の施設において二宮町の分50床が確保できている状態で、それでも100床必要か内部で再検討中である。次の計画を見据えて見直しを進めていきたい。事業者の公募はかけていない。</p>

公共交通、二宮団地、公園について	
参加者	<p>百合が丘は坂が多く、高齢者は思うところに行くことが難しくなっている。解決できる公共交通システムを作ってもらいたい。カーシェアは低料金で実現できるのではないかな。</p> <p>人口増が続いていた時代には県住宅供給公社の所有する団地について、町も住民も無関心に近かったように思う。人口減少の現在、公社は入居率の向上を目指し町はそれをサポートするという連携体制を持って進めたらいいと思う。</p> <p>公園は町の資産であると考え。利用率が低くいらぬところは無くす、残すのであれば周辺住民が管理するなど、他の施設と同じ発想でスクラップアンドビルドが必要である。</p>
町長	<p>交通システムについては、国でもいろいろな実験を行っているようであるが、過疎地、都心部といったエリアの状況によって違ってくる。二宮町の現状に合った研究をしていきたい。</p> <p>県住宅供給公社の空き室問題については継続的に働きかけを行っていきたい。県公社としても、田植えやオリーブ植栽などでイメージ向上を図りながら、生活の提案を盛り込んでやっていこうとしている。町も協力していく。</p>

	公園については、地域にある程度任せることが必要であると考えており、地域住民の方々と話し合いながら進めていきたい。
--	--

墓地問題について	
参加者	人口減少が全国的な問題になっている中で、宅地の目の前に墓地ができたら人は出て行ってしまい、人口減少はより深刻化する。二宮高校前には住工混在をなくそうと書かれた石碑が建っている。住民の反対意見を明示してほしい。
町長	事業者からの申請が平塚保健福祉事務所に受理され、町へは意見照会が来ている。制度上、町は需給状況や交通に関して意見を述べるものであるが、地元のアンケートによる意向も明確に伝えていきたい。

学校統廃合、地区情報共有について	
参加者	児童生徒数が減ってきており、一色小学校の統廃合の話やコミュニティスクールという言葉聞くようになった。具体的にどのような内容なのか。 地域で回覧を回したり広報板へ張り出したりして情報共有を図っているが、これだと個々の家で手元に物が残らない。町のホームページに地区の掲示物を載せるようにできないか。
町長	ホームページの件は技術的には可能だと思われるが、町民全員がアクセスできるわけではないので、広報紙と両方で工夫しながら研究します。
教育長	町内小中学校全体で児童生徒数が毎年 50～60 人減少しており、このままだと 20 年で 1,000 人減ることになる。その仮定だと 20 年後は小中一貫の学校を二宮小学校・二宮中学校区で 1 校、一色小学校・山西小学校・二宮西中学校区で 1 校というような状況になっていることになるが、そうなるまでの過程をできるだけ早く示したいと思っている。様々な統廃合案が考えられるが、学区再編も必要になってくるので、小中一貫教育という視点を入れて、平成 29 年度 30 年度に県の研究指定を受けて検討し、教育委員会としてのプランを平成 30 年度中に出したい。 町全体の公共施設再配置計画案とのすり合わせにもその後 2 年くらい必要で、町民意見を聴く期間も入れると、少なくとも 5 年以内に一色小学校をどうするかというような話にはならない。 コミュニティスクールについては、今年、国と県の指定をもらい 2 年計画により一色小学校で研究を始めた。他の小学校もコミュニティスクール化していきたいと考えているが、一色小学校はこれまでも友情の山などで地域との共同事業をやっている実績もあり、コミュニティづくりに適していると考えた。現在、学校評議委員として 6 名いるが、この方たちにいずれ学校運営協議会の委員になってもらい、学校教育に参画してもらいたいと考えている。地域と学校が子

	どもの教育を両者で行っていくというのがコミュニティスクールの考え方である。
--	---------------------------------------

まちづくり条例について	
参加者	昨年のまちづくり移動町長室において、まちづくり条例をつくるという話であったが、本日の説明で条例名が変わっていた。ランクを下げたのか、なぜまちづくり条例は無くなったのか。
町長	まちづくり条例策定はやめたわけではない。早急にやる部分だけを先に盛り込んで開発条例とするものである。

民間活力の導入について	
参加者	人口も収入も減り予算が無い状況で、例えば民間と協力してオリーブ事業を行うなどといったことはしないのか。
町長	オリーブについては、農家が取り組んで町がサポートをしていく体制である。オリーブに限った話ではなく、町事業を民間とともにやっていくという方向性は考えている。公共施設再配置問題にも民間の活力が必要である。

空き家の活用について	
参加者	全国で 800 万軒の空き家があると聞く。空き家を使って小規模保育所をつくれませんか。
町長	空き家については、人が住む住居としての活用と、保育園などの事業における活用がある。一時預かりの施設などとしての利用の可能性はある。事業者への情報提供を視野に入れて検討したい。
政策担当 参事兼企 画政策課 長	昨年度に、水道の栓を閉めている家を対象として全町調査を行った結果、空き家が 199 軒あり、そのうち一色 5 件、緑が丘 1 件、百合が丘 1 丁目 7 件、2 丁目 11 件、3 丁目 4 件であった。地区にも調査をしてもらい、さらに一色 1 件、百合が丘 1 丁目 11 件、2 丁目 17 件、3 丁目 9 件を含めて全町で 65 件追加された。 空き家の活用方法などについては空家等対策計画作成等検討委員会を立ち上げて検討していきたい。また、空き家にしないための策として、持ち主向けのセミナーや相談会を実施していく予定である。

防災対策について	
参加者	一色小学校には井戸水があり、校舎トイレの水として利用されている。災害時に避難所として利用される一色小学校体育館についてもトイレに井戸水を使えたら安心である。配管をお願いしたい。

町長	施設改修時に検討していきたい。避難所の安全性を含め改善を図りたい。役場庁舎においては、耐震診断結果がA～Eのランクの中でDであり、後回しにできない状況である。
----	---

シティプロモーションについて	
参加者	人口減少社会において、社会移動数を増やそうとシティプロモーションに力を入れたりフェイスブックを導入したりしていることは住民としてありがたい。町外からの注目度を指標により公表できる仕組みを作ってもらいたい。
町長	今回策定した総合戦略には目標値を色々と盛り込んだ。結果に基づく検証も行っていかなければならないので、ひとつの目安として考えていきたい。

墓地問題について	
参加者	墓地問題について、先ほどから意見照会をされているとの話であるが、ほとんど決まっているということか。町長の考えはどうか
町長	地元住民の方々が反対されているのは承知しており、町として建設に賛同しているわけではない。このことは意見照会への回答にもきちんと明記するが、町に決定する権限がない。